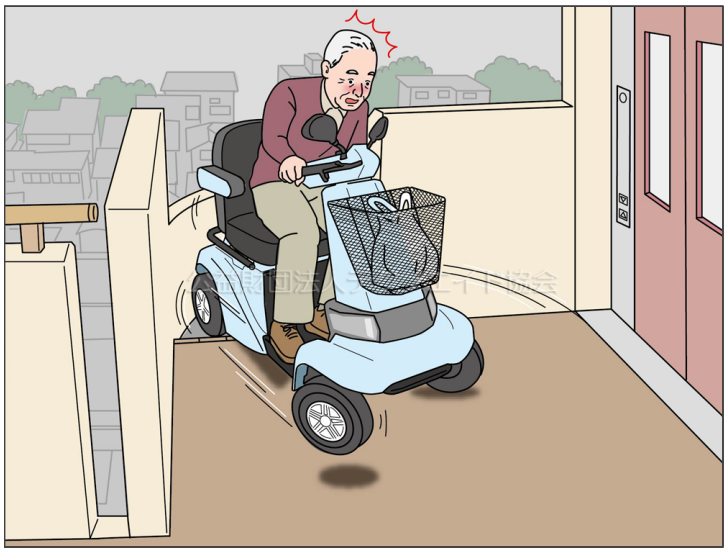
Case：404

集合住宅の階段付近でUターンをしようとして転落しそうになった

場面の説明

ハンドル型電動車いすを操作中、集合住宅の上層階で、エレベータに向けて方向転換しようとしていたところ、誤って階段部分に脱輪、転落しそうになる



利用シーン	外出
主な利用場所	その他
介護保険の種目	車いす
分類コード(CCTA95)	122124 (電動三輪車・電動四輪車)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

歩行の困難さや充電のため、集合住宅にある自宅の玄関先までハンドル型電動車いすで移動する必要があったのだと考えられます。階段付近などで切り返しを行なう際、ハンドルに取り付けられたバックミラーでは後進方向や床面の状況が映らず確認できません。狭いスペースで方向転換をする場合、とりまわしの練習などで安全を確認した上で納品し、日々の利用では介助者に後方を確認してもらうなど、十分に注意しましょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：納品担当者が切り返しにより方向転換することを想定できなかった
人：目視ができなかったが感覚的な操作でも大丈夫だと考えていた
モノ：ハンドルを切るとバックミラーが横を向き、後輪の位置が確認できなかった
環境：後ろを確認してくれる介助者がいなかった

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.